

世界史の中の渋沢栄一

本日の問題提起として

2016.12.17(土)「論語とそろばん」ウィークエンド・セミナー

17世紀初 頭の世界

・GDPで、中国が、ヨーロッパよりはるかに勝っていた。

1600年	中国	西ヨーロッパ
人口	16000万人	7377万人
GDP	960億	656億(国際ドル)

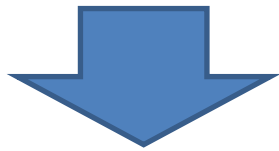
1870年	中国	西ヨーロッパ
人口	35800万人	18750万人
GDP	1897億	3675億(国際ドル)

『経済統計で見る世界経済2000年史』アンガス・マディソンより

約300年かけて逆転されていく。なぜそうなったのか。

ヴェストファーレン条約(1648)

- ・ヨーロッパは三十年戦争(1618~1648)で疲弊しきった



- ・聖俗の分離
- ・国家間のプレイヤーは主権国家のみ
- ・ただし、この条約がどこまで画期になったかについては諸説あり

中華帝国と近代ヨーロッパ

テムの違い

【中華帝国】

- ・上下関係大好き
- ・上下関係のなかでの「和」の秩序構築

【近代ヨーロッパシステム】

- ・対等な関係
- ・お互いに熾烈な競争

「産業革命」の威力

●「産業革命」=「生産の機械化」

① 大量の良質な鉄

イギリスで製鉄法の革新

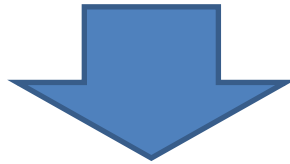
② 動力

イギリスで蒸気機関の開発

- ・「木炭」から「石炭、コークス」という背景
- ・一時期、世界の工業生産品の三分の一がイギリス製といわれる圧倒的な経済力
- ・大量生産と動力による軍事技術の革新

ウィーン会議の意味

- ・「革命恐い」←フランス革命
- ・「一か国の突出恐い」←ナポレオン



- ・「正統主義」——ハプスブルクとロマノフ、両王朝の権威と実力によって秩序を作る
- ・「勢力均衡」——一か国だけ突出しないよう、バランスをとる
- ・ヨーロッパ内部では極力争わず、その力のはけ口して「植民地獲得」が目指される

ヨーロッパが「世界の中心」

- それまで、地球には地域を中心しかなかったが、特に産業革命の成果で圧倒的な力を持つヨーロッパが世界の中心となった。
- これ以後、世界の主要地域は、「近代化＝西欧化」せざるを得なくなる。
 - ① 力に圧倒され植民地になる
 - ② 模倣してみずから近代化する

上下関係大好き中国

【三綱】

君臣

父子

夫婦

➡日本も同じ。対等な関係での呼称が難しい。

➡サル山の序列。序列ができると群れが安定する。

アメリカ東部13州

1776年

独立宣言

1783年

パリ条約。独立達成。

1803年

フランス領ルイジアナ買収

1819年

スペイン領フロリダ買収

1845年

テキサス併合

1864年

米墨戦争などによりカリフォルニア、ネバダ、ユタなど併合



フロンティアの成立



未開拓地 ← → 開拓済

アメリカン・スピリッツの土壌

- 自助の精神

「セルフメイド・マン」

銃規制の問題 「市民兵」

- 機会均等・門戸開放

- 社会的流動性の高さ

「丸太小屋からホワイトハウスへ」

アメリカン・ドリーム

1840年2月13日生誕

アヘン戦争

岩崎弥太郎 5年先輩

福沢諭吉 //

坂本龍馬 4年先輩

高杉晋作 1年先輩

伊藤博文 1年後輩

東郷平八郎 8年後輩

1931年11月11日逝去 満洲事変

「日本資本主義の父」

「実業界の父」

ノーベル平和賞候補二回

南北戦争の原因

- 一般には、奴隷を必要とする大規模農業の南部と、必要としない工業中心の北部の対立
- 背景に、新たに州となる西部の問題
 - 北部としては、工業生産品の購買の主体となる独立自営農民の方がよい。奴隷制拡大反対。
 - 南部としては、新たな収奪農業の資源として西部にも奴隷制を認めさせたい。

日本が近代化できた理由

【外部環境】

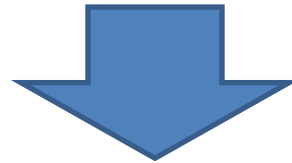
- ・欧米で「クリミア戦争」「南北戦争」があり、日本に手が回らなかった。

【内部環境】

- ・近代化には、よき政治家が必要（「政治改革」を目指した幕末維新の志士の多くは、政治家や軍人となった）だが、同時に国の経済力を高める人材が必要。
- 日本は、渋沢栄一がいたから、層の厚い資本主義、実業界を築き得た。そして、他の国では同じレベルでは為し得なかった。
- 日本海海戦で使われた戦艦と装甲巡洋艦はすべて外国産。経済力なしには軍事力は成り立たない。

「時代の児」渋沢栄一

- ・ 渋沢栄一が15歳までに、イギリスで会社法が整備され、「準則主義」による「有限責任」の会社ができるようになり、ヨーロッパ各国に広まる。
- ・ ヨーロッパで投資銀行が生まれ(1822)、栄一13歳のときにフランスで、ソシエテ・ジェネラル・ド・クレディ・モビリエが設立される。
- ・ 栄一12歳の時に、イギリスで世界初の万国博



- ・ こうした最新の成果を国の経済政策に反映させたのがナポレオン三世

- 栄一の訪れたフランスは、ナポレオン三世の統治下（第二帝政）
- 経済成長を本格的に意識し、総合的な政策を持つことのできた最初の政体

「国家介入主義」

① 金融の整備

お金を回す

② インフラの整備

人とモノを回す

③ 人材育成

お金、人、モノを回せる人を育てる

➡ 渋沢栄一が、日本でやったことと同じ

「高利貸し」と「バンカー」

- それまでは「高利貸し」
＝お金の調達
- 一九世紀ヨーロッパで生まれた
「バンカー」
＝信用の調達

渋沢栄一の作ったシステム①

【信用で回す経済】

- ・金融機関が自らの信用で、顧客から預貯金を集め、信用できる企業などに投資し、そのリターンを顧客に分配する。
 - 日本人の信用の源泉としての『論語』
- ・しかし同時に、利を否定しない。利だけを目指す会社でも、最終的に社会のためになる場合があると考える。
 - 市場の多様性確保。分厚い実業界の源泉

渋沢栄一の作ったシステム②

【協調と競争のバランス】

- ・日本に移植したばかりの資本主義、実業界であるがゆえに、お互いの助け合いが必要。
 - 業界団体の設立。企業の全国的な組織化。
- ・しかし同時に、競争がないところには進歩がないと考える。若いころの商売の体験。ヨーロッパ各国の力の源泉。
 - 競争の確保。わざわざライバルを作る。

渋沢栄一自身として

【財閥を作らない】

- ・財閥解体時の財産がほとんどない

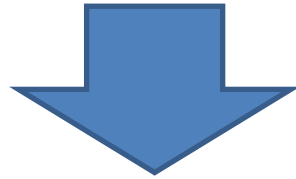
【無私のプレーヤー、設計者、運営者】

- ・自ら経営者であり、かつ業界団体の代表であり、
という立場で制度を作り、運営していった。



他の近代化を果たした国で、よき政治家は出ても、
ここまでの経済の設計者・運営者は生まれな
かった。

- しかし、信用は目先の利益の前に棄損されがち。
➡バブル、リーマンショック
- 調和と競争のバランスをとるのも簡単ではない。
特に栄一のような突出した指導者のいない状況
では。

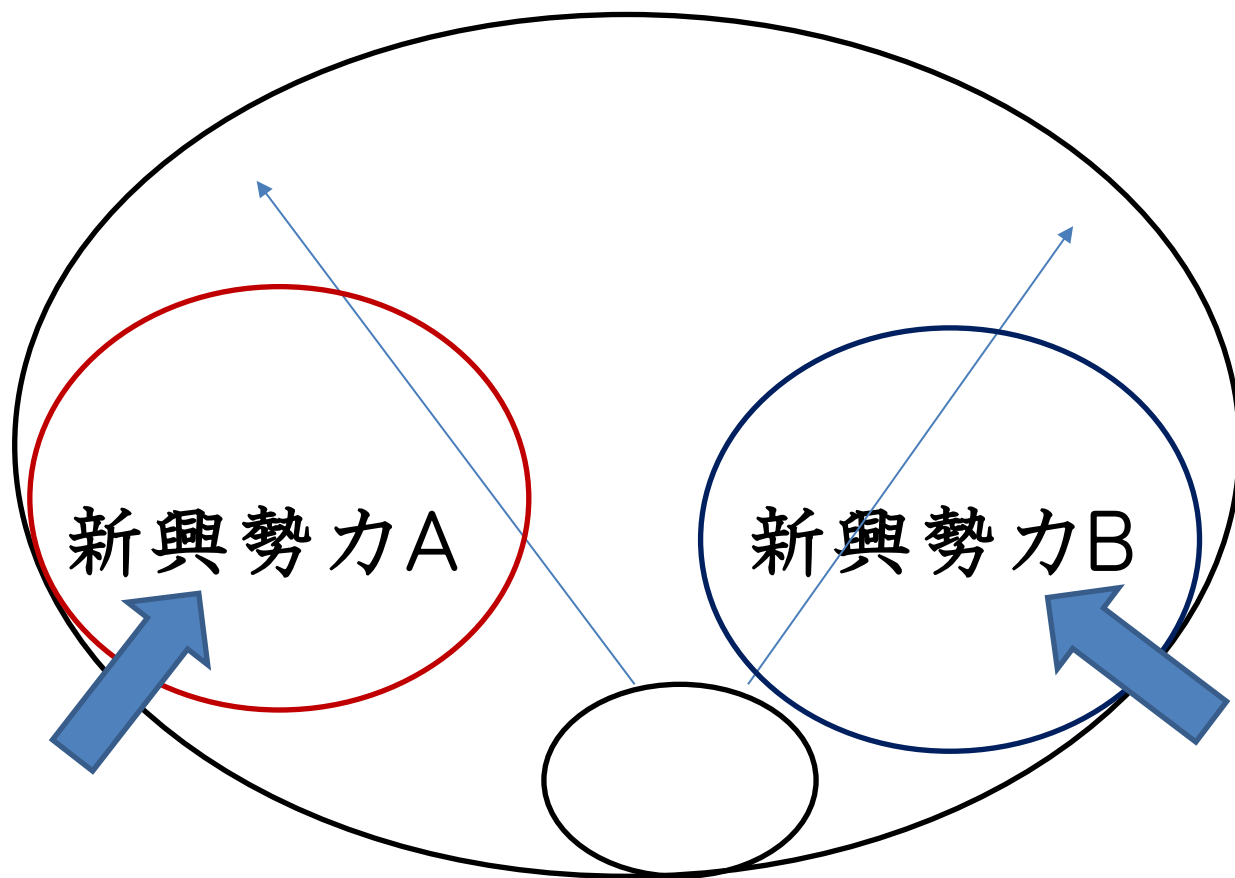


- どうすれば、バランスの良い永続性が実現できる
のか？
➡渋澤健さんの講演へ

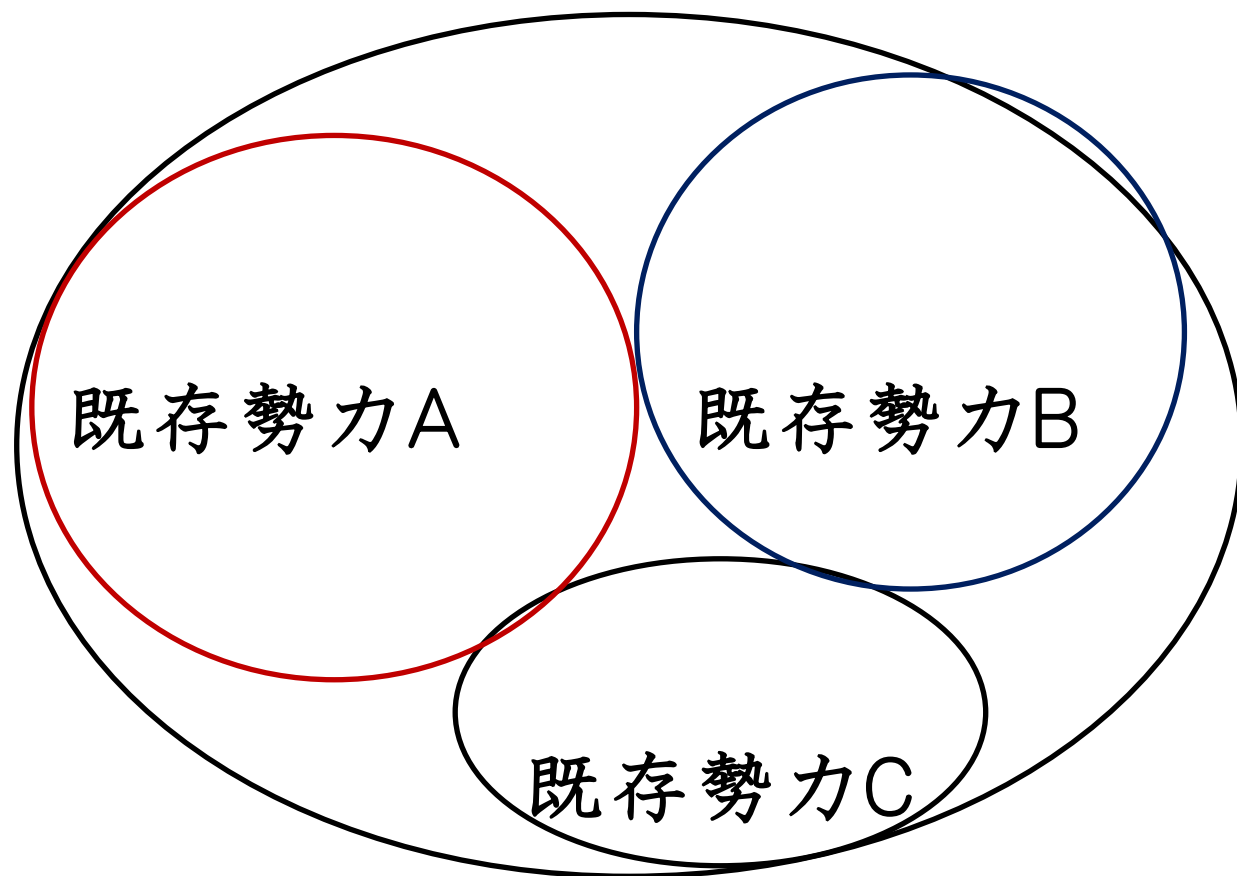
フロンティア消失で何が起こるのか

- 社会的流動性の高さの喪失
貧富の格差拡大 機会均等の喪失
- 経済的な不況(1893年～)
インフラ投資先の消失(特に鉄道)
失業者400万人
五千の銀行、一万五千の企業が倒産

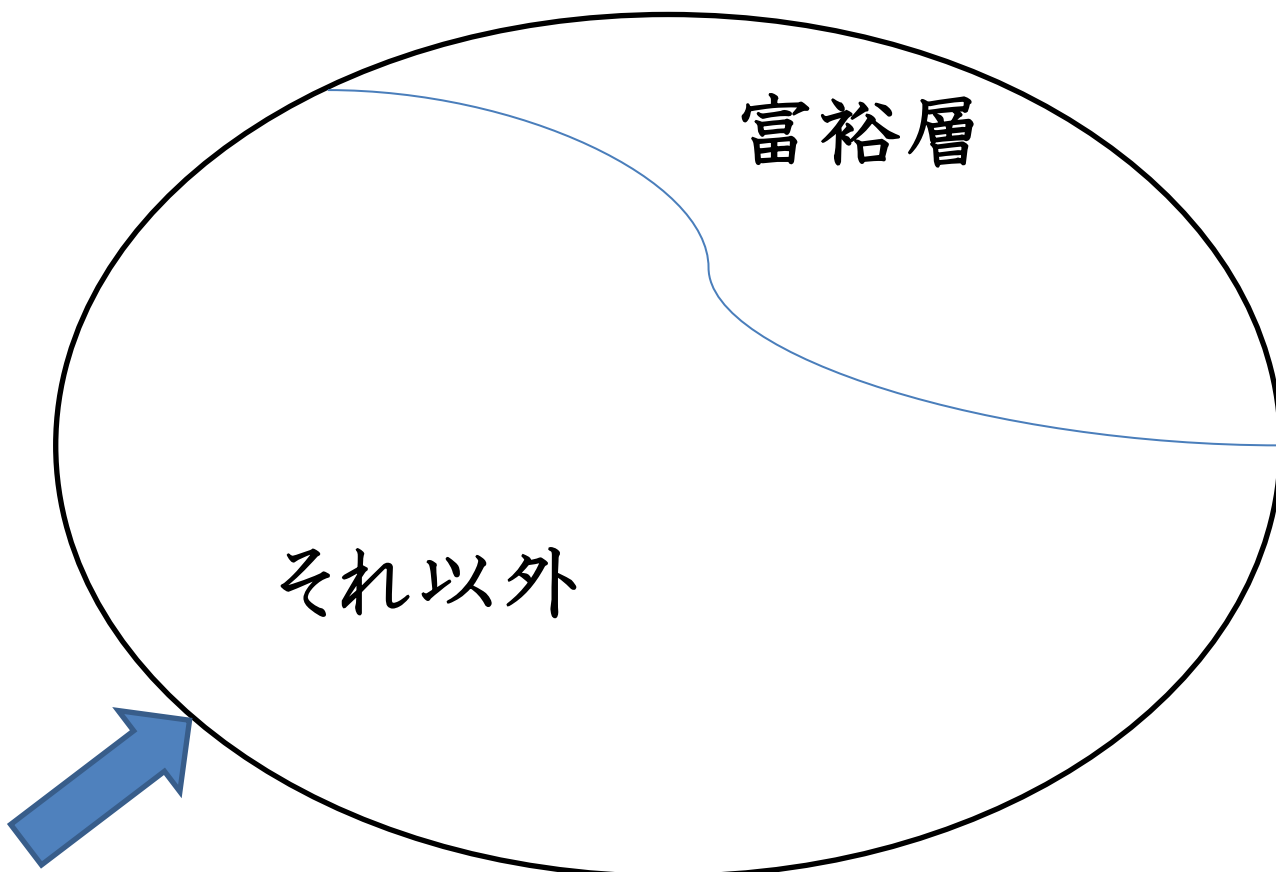
パイの拡大があれば新興勢力が大きなシェアを占めることも可能



パイが同じないし、縮小傾向のところでは、新興勢力はきわめて入りにくい＝流動性の低さ



社会が二極化するなかで、さらに下に入って来てしまいう移民



移民は、さらに安い賃金で入ってくる

- 一八八二 中国人排斥法
- 一九〇六 サンフランシスコ市で日本人学童隔離問題(1907 大統領の干渉により撤回)
- 一九〇七 ハワイからの日本人移民渡航制限
日本政府がアメリカと移民制限の紳士協定
- 一九〇九 渡米実業団団長としてアメリカに渡り、一二〇日あまりで五十三都市をまわる。
- 一九一三 カリフォルニア州で排日土地法制定
- 一九一五 パナマ運河開通記念博覧会の見物を名目に渡米
- 一九二一 ワシントン軍縮会議視察のため渡米

栄一の訪米

- 第一回 62歳(1905年) 欧米視察
- 第二回 69歳(1909年) 渡米実業団
団長
- 第三回 75歳(1915年) パナマ運河
開通記念万国博覧会訪問
- 第四回 81歳(1921)年 ワシントン軍備
制限会議視察

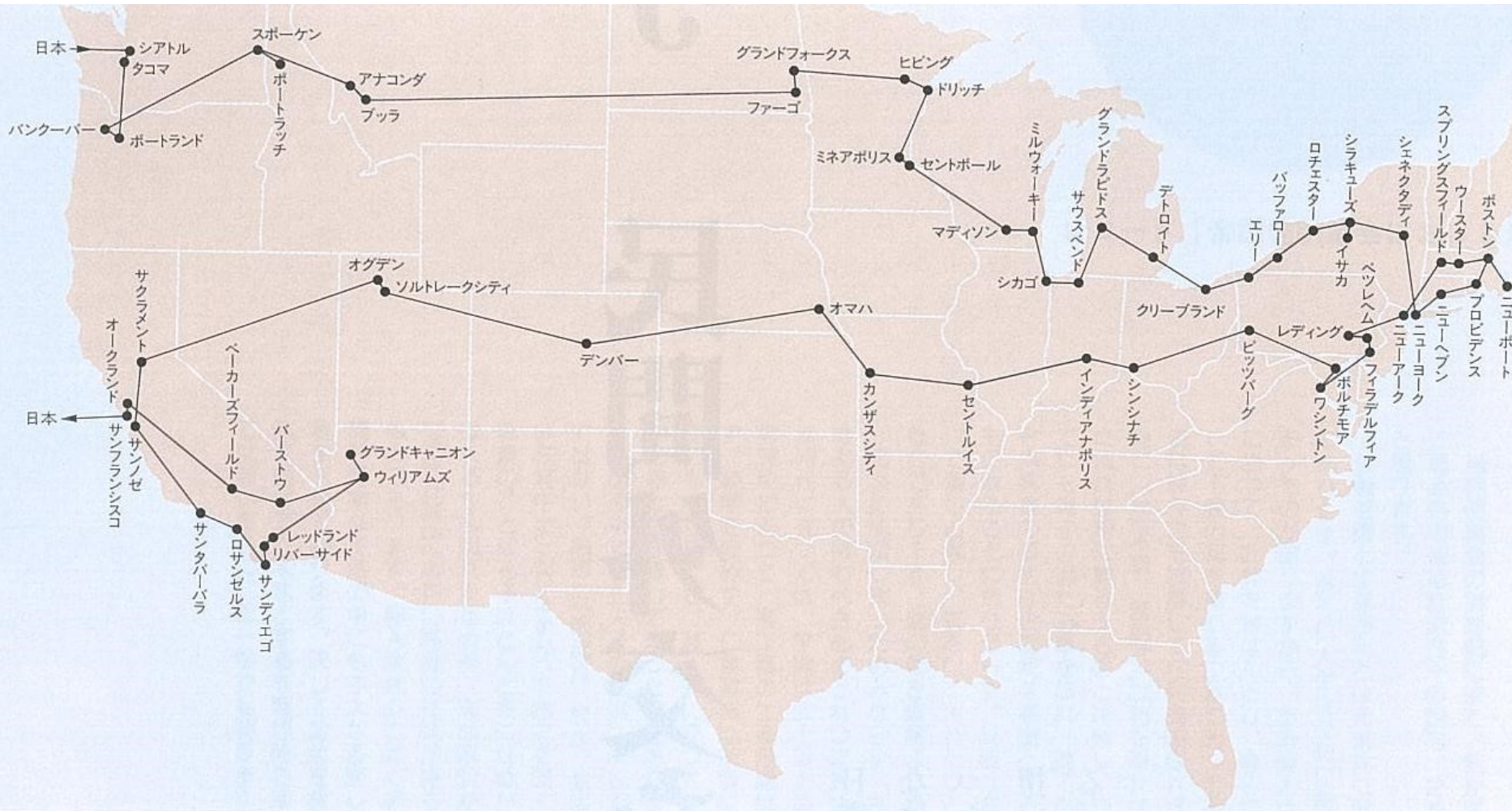
フロンティア消失にどう対応するか

- スクウェア・ディール

公権力が経済に介入し、強者の権利を制限
セオドア・ルーズヴェルトは労働福祉や累進
課税にまで踏み込みたかったが、実現せず

- 海外に市場を求める

カリブ海沿岸、南米諸国に対する「棍棒外交」。
広大な中国市場に食指。



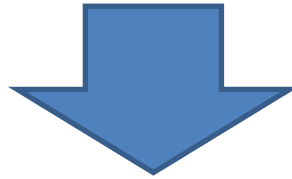


渋谷史料館『常設展示図録』より



渋沢史料館『常設展示図録』より

- 多様性は、新しいものを生む何よりの原動力。
- しかし、異質なものは簡単に受け入れがたく、がゆえに、反発やいさかいも生みやすい。



- この難問を解く鍵は
 ➡楠本さんの講演へ